

担い手と地域が
元気に輝く農業
～農業やるなら栃木県～

栃木県の農業・農村の概要

とちぎの“食と農”2026

TOCHIGI AGRICULTURE 2026



とちぎの“食と農”

栃木県の農業・農村の概要 2026年度版



【1位 米】



【3位 豚】



【5位 鶏卵】



【7位 もやし】



【9位 なし】



【10位 にら】



【2位 生乳】



【4位 いちご】



【6位 肉用牛】



【8位 トマト】

目次

- とちぎの農業のすがた・・・・・・・・・・1
 - ・農業生産の動向
 - ・担い手の動向
 - ・農地の動向
- とちぎ自慢の農産物・・・・・・・・・・2
 - ・主要な農産物一覧
 - ・米・麦・大豆
 - ・野菜・特産・果樹・花
 - ・畜産
- 栃木県農政の基本方針と重点戦略
・・・・・・・・・・5
- 栃木県農政部の組織と仕事
・・・・・・・・・・7
- 栃木県の品種・技術開発の取組
・・・・・・・・・・8
 - ・とちぎの農業関係試験研究機関
 - ・オリジナル品種の開発
 - ・新技術の活用

令和6年農業産出額 県内上位10品目

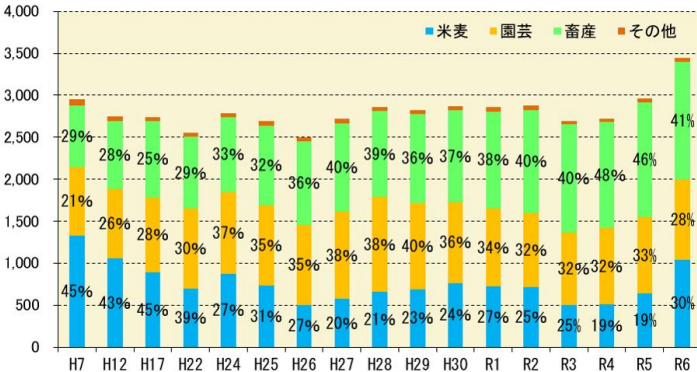
とちぎの農業のすがた



農業生産の動向

- 栃木県は大消費地である首都圏に位置し、平坦で広い農地、豊富な水資源、穏やかな気候など、農業に適した条件に恵まれています。
- これらの条件と農業者の優れた技術によって、日本一のいちごをはじめ、米、生乳、にらなど、全国に誇れる多彩な農産物が生産されています。
- 栃木県の令和6年の農業産出額は3,448億円、全国順位は9位となっています。

(億円) 【農業産出額】



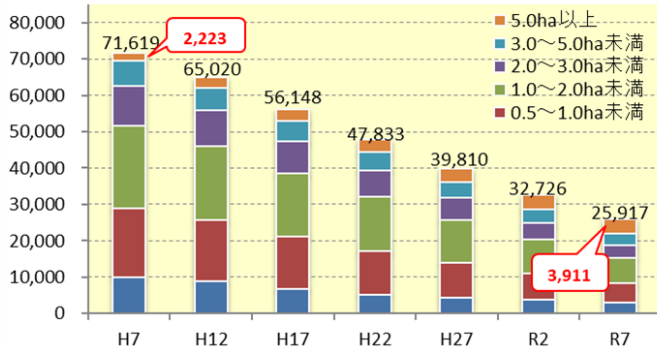
【とちぎの農産物産出額ベスト10】

順位	農産物	産出額(億円)	構成比(%)	全国順位
1	米	998	28.9	9
2	生乳	471	13.7	2
3	豚	334	9.7	8
4	いちご	303	8.8	1
5	鶏卵	271	7.9	7
6	肉用牛	268	7.8	5
7	もやし	105	3.0	1
8	トマト	77	2.2	8
9	日本なし	53	1.5	5
10	にら	48	1.4	2

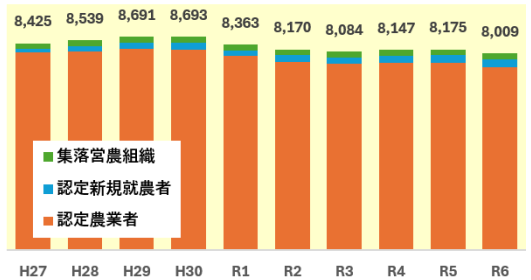
農家・担い手の動向

- 農家(経営面積30a以上等の農業経営体)は高齢化等に伴い年々減少し、30年前の約4割となっています。一方で、経営面積5ha以上の農家は平成7年度の2,223経営体から3,911経営体と約1.8倍となるなど、経営の大規模化が進んでいます。
- 約8千の認定農業者等が担い手として活躍しています。
- 令和8年度の新規就農者は381人であり、現在の集計方法となった令和3年度以降350人前後で推移しています。

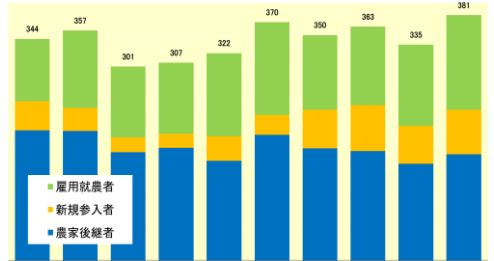
【経営耕地面積規模別農業経営体数の推移】 農林業センサス



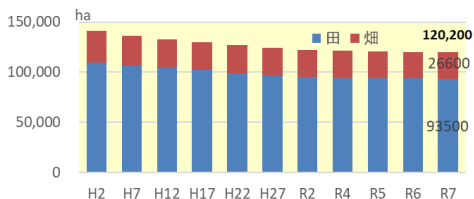
【担い手】



【新規就農者】



農地の動向



- 【耕地面積】
- 約12万haのうち、田の面積が約78%を占めています。

食料自給率

食料自給率(%)	栃木県	全国
カロリーベース	72	37
生産額ベース	109	66

※全国はR7、栃木県はR6概算値(農水省)

- 【食料自給率】
- 本県は、カロリーベースで72%(前年度比▲1ポイント)、生産額ベースでは109%(前年度比+13ポイント)。

とちぎ自慢の農産物



いちご

栃木県は、生産量が半世紀以上にわたり日本一の「いちご王国」。「とちあいか」は、作付面積が県全体の9割を超える主力品種です。

また、令和8年2月の「全国いちご選手権」において、「とちあいか」が最高金賞を受賞し、本県いちごは生産量、産出額、食味の3部門で日本一となり、「いちご三冠」を達成しました。



うど

独特の味と香り、歯ざわりが魅力のうど。

穂先は天ぷら、皮はきんぴら、茎は酢の物など、余すところなく食べられる優れものです。



かんぴょう

300年以上前に栽培が始まり、生産量が全国の99%以上を占める特産物。

かんぴょうは保存性に優れ、食物繊維を多く含むヘルシーな食材です。



麻

栃木県で作られる精麻は「野州麻」と呼ばれ、強度があり、利用価値が高いと言われています。

伊勢神宮のしめ縄にも使われています。



二条大麦

県内全域で生産される二条大麦は、ビールやお菓子などの原料になります。

そのうち、ビールの原料となる「ビール大麦」の収穫量は全国1位です。



生乳

冷涼な県北地域を中心に乳用牛が飼育されています。

牛乳には、たんぱく質やカルシウムが豊富に含まれています。



にら

県内全域で生産され、1年を通して出荷されています。

県オリジナル品種「ゆめみどり」の作付面積が拡大しています。



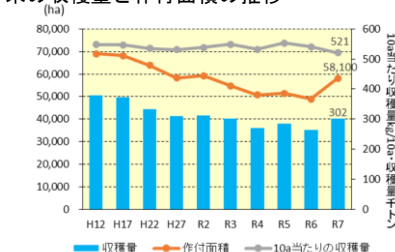
米・麦・大豆

- 豊かな水資源と広大な水田からコシヒカリを中心としたおいしい「栃木米」が生産されています。
- 子どもたちがおいしい「栃木米」を味わえるよう、学校給食には、全量県産米が使用されています。
- 本県オリジナルの米「とちぎの星」は高温耐性に優れ、近年の夏の猛暑の影響から作付が拡大しています。

※収穫量の全国順位

米(全国第8位※)

米の収穫量と作付面積の推移



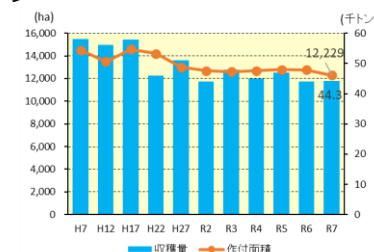
302,700トン
(R7)

おにぎりに換算すると、国民1人当たり約40個分



ビール大麦(全国第1位※)

麦類の収穫量と作付面積の推移



23,116トン
(麦検査数量R7)

ビール(大瓶)に換算すると、県成人1人当たり約131本分



大豆(全国第13位※)

大豆の収穫量と作付面積の推移



4,250トン
(R7)

豆腐に換算すると、県民1人当たり約25丁

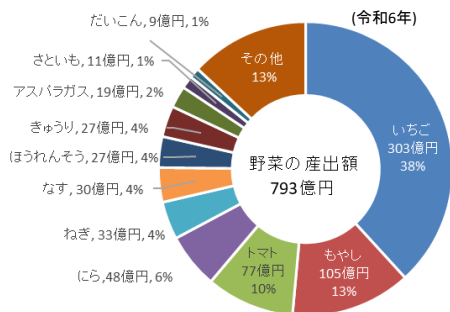


野菜・特産

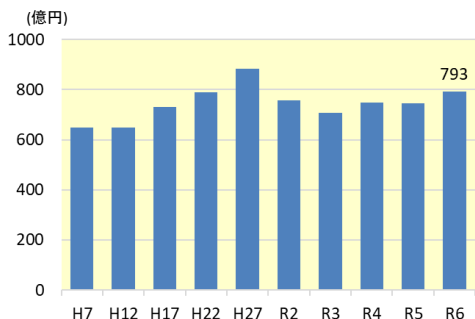
- 半世紀以上にわたり生産量が日本一のいちごをはじめ、トマト、にら、アスパラガス、なすなど多彩な野菜が生産されています。
- とちぎの新鮮な味を、1年を通してより多くの食卓に届けるため、最新の生産施設や出荷施設の整備を進めています。
- 収穫量全国第1位のかんぴょう、うど、あさなど、地域の自然や風土に根ざした特産物が生産されています。

※収穫量の全国順位

野菜の品目別産出額割合



野菜の産出額の推移



いちご(全国第1位※)



28,800トン
(R7)

県民1人当たり
約54パック分
(1パック約270g)

トマト(全国第6位※)



27,100トン
(R7)

県民1人当たり
約119個分
(1個約120g)

にら(全国第2位※)



7,610トン
(R7)

県民1人当たり
約40束分
(1束約100g)

かんぴょう(全国第1位※)



160トン
(R7)

地球をかんぴょう
で巻くと
地球約1周分

あゆ(全国第4位※)



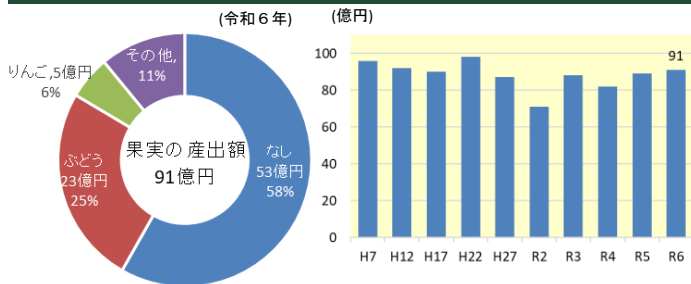
176トン
(R6)

一列に並べると
宇都宮市から大阪市
まで届きます

果樹・花

- 本県の果樹は、なしとぶどうが多く生産されており、県の果実産出額の8割以上を占めています。
- 特に、なしは収穫量全国第3位で、甘くてみずみずしい「幸水」や「豊水」、さらには本県オリジナル品種「にっこり」が生産されており、輸出も行われています。
- 花では、きく、ばら、ゆり、トルコギキョウ、シクラメン、洋らんなど、四季折々の多彩な花が生産されています。

果実の品目別産出額割合、産出額の推移



なし(全国第3位※)



14,400トン
(R7)

県民1人当たり
約25個分
(1個約300g)

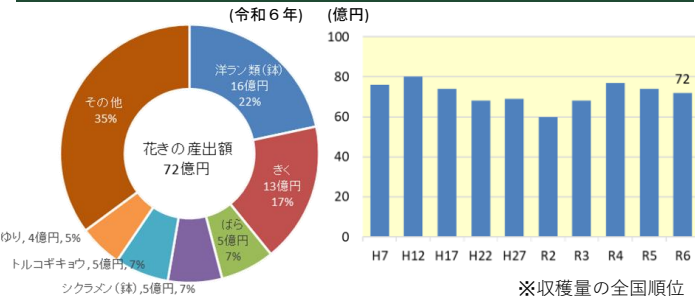
きく(切り花)(全国第8位※)



2,300万本
(R7)

県民1人当たり
約12本分

花の品目別産出額割合、産出額の推移



※収穫量の全国順位

鉢物類(全国第13位※)



298万鉢
(R7)

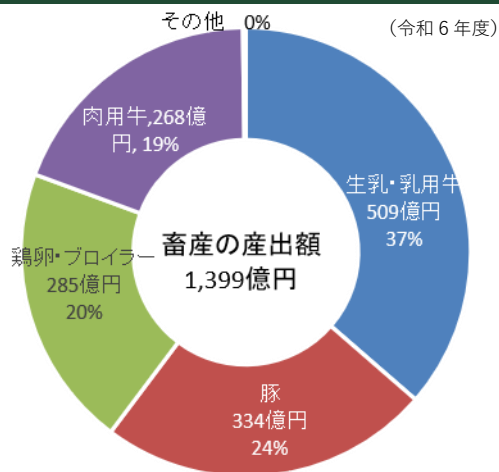
県民1人当たり
約1.6鉢分

*本書での「なし」は日本なしで、西洋なしは含まない。

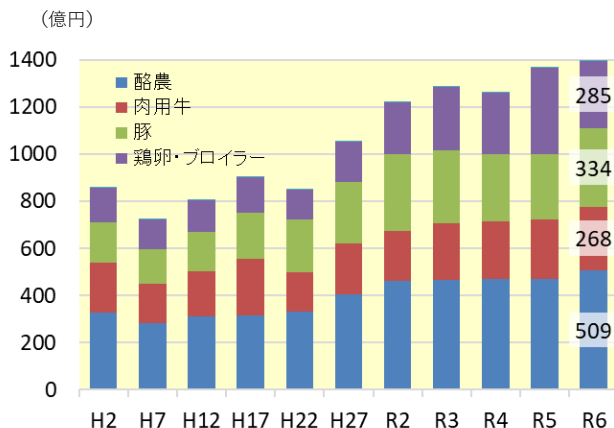
畜産

- 産出額は、生乳・乳用牛が全国第2位、肉用牛が全国第5位であるなど、全国有数の畜産県です。
- また、畜産物の産出額は増加傾向であり、本県の農業産出額の4割を超えています。
- 牛肉は、アメリカやシンガポール、EUなどへの輸出も行われています。

畜産物の品目別産出額割合



畜産物の産出額の推移



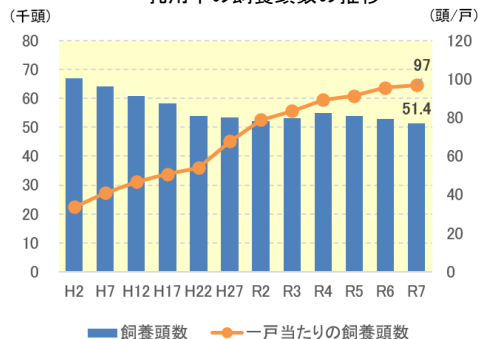
生乳(全国第2位※)

351,773トン
(R7)



県民1人当たり
牛乳パックに換算して
約923本分
(1本200ml)

乳用牛の飼養頭数の推移



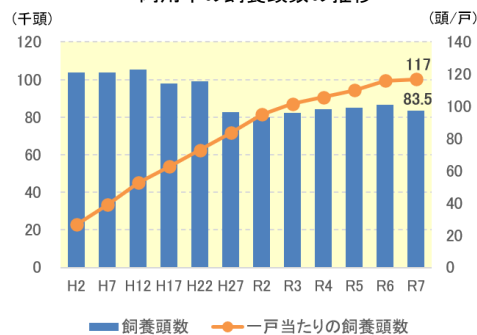
※飼養頭数、飼養羽数の全国順位
牛肉(全国第6位※)

12,040トン
(R7)
※精肉換算



県民1人当たり
ステーキに換算して
約32枚分
(1枚約200g)

肉用牛の飼養頭数の推移



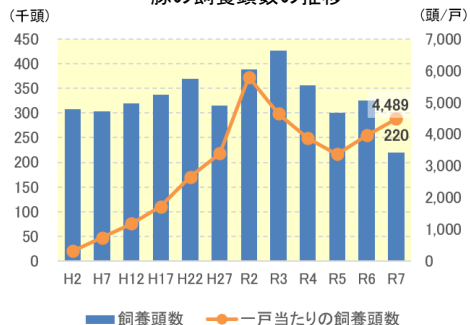
豚肉(全国第10位※)

20,277トン
(R7)
※精肉換算



県民1人当たり
とんかつに換算して
約59枚分
(1枚180g)

豚の飼養頭数の推移



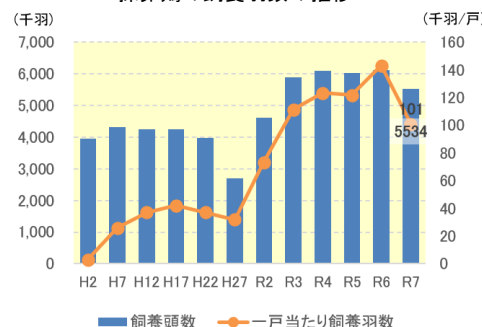
鶏卵(全国第9位※)

105,472トン
(R7)



県民1人当たり
目玉焼きに換算して
約925枚分

採卵鶏の飼養羽数の推移



栃木県農政の基本方針と重点戦略

【基本目標】

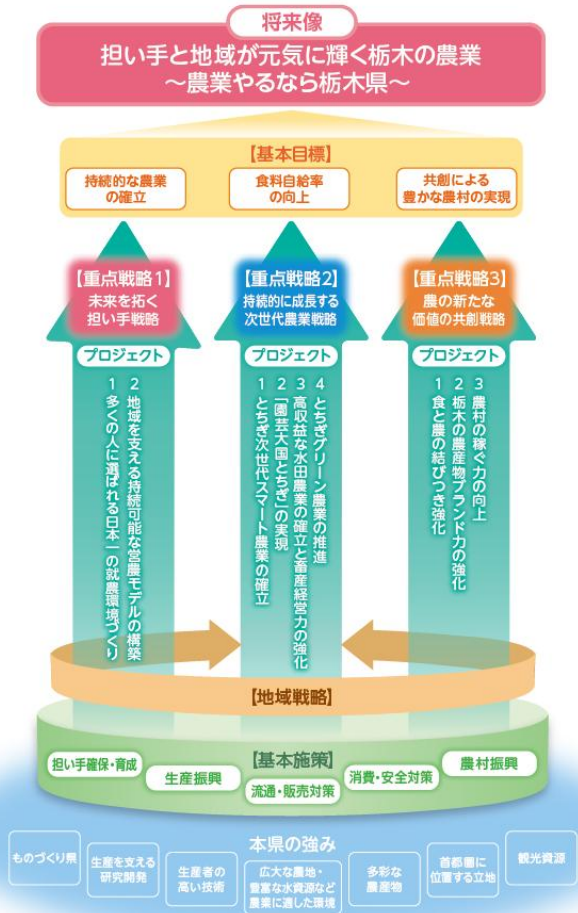
担い手の確保・育成と生産力の強化を図り、食料自給率の向上と持続的な農業の確立を目指すとともに、共創による豊かな農村を実現します。

数値目標(2030年)		(参考)現状値
◆新規就農者数(5年間)	2,500人	1,740人 (2020-2024年)
◆農業経営体当たりの農業産出額	1,500万円	1,038万円 (2023年)
◆農産物輸出額	15億円	8.2億円 (2024年)
◆農村地域の交流人口	2,200万人	1,929万人 (2024年)

(出典) 新規就農者数・農産物輸出額・農村地域の交流人口：栃木県農政部調べ
農業産出額：農林水産省調べ

【重点戦略】

将来像の実現に向け、重点的に取り組む3つの戦略を掲げ、9つのプロジェクトを展開するとともに、県内7地域の特徴や強みを生かした地域戦略を推進しています。



重点戦略1：未来を拓く担い手戦略

農業者がいきいきと活躍できる就農環境をつくり、多くの人材を県内外・農内外から本県に呼び込むとともに、地域を支える経営体の経営力向上や農業生産基盤の確保等により持続可能な営農モデルを構築します。

①多くの人に選ばれる日本一の就農環境づくり

本県農業を支える担い手を確保・育成するため、本県で農業を営む魅力を広く発信するとともに、様々な就農ニーズに対応できる支援体制の強化を進めるほか、誰もが安心して働くことができる環境づくりに取り組みます。



就農相談会「トチノフエ」



いちごのパック詰め体験

②地域を支える持続可能な営農モデルの構築

農業者の急激な減少を克服し、持続可能な地域農業を実現するため、地域営農の中核となる法人経営体等の確保・育成を進めるほか、営農をサポートする仕組みづくりや農業法人の誘致、企業の農業参入などを支援するとともに、農地の集約化など農業生産基盤の確保等に取り組みます。



農業参入フェア栃木県出展ブースの様子



農地利用の話し合い

重点戦略2: 持続的に成長する次世代農業戦略

気候変動に適応しながら、多くの農業者が先端技術を活用し、持続可能な稼げる農業を展開することで、次の世代へと引き継いでいく本県農業を実現します。

①とちぎ次世代スマート農業の確立

農業の生産性を高めるため、スマート農業・農業DXの推進拠点を設置するとともに、先端機器やデータの活用、それらの効果が最大限に発揮できる環境づくりを進めるほか、スマート農業技術に適した新品種・新技術の開発や、中山間地域等での省力化技術の活用促進等に取り組めます。



スマート農業に適した生産方式等の実証



大区域に整備されたほ場

②「園芸大国とちぎ」の実現

首都圏に位置するなどの強みを生かし、「園芸大国とちぎ」を実現するため、先端技術を活用した生産のイノベーションや気候変動対策を進め、次世代園芸産地の確立を図るとともに、高収益ないちご経営モデルの拡大や、世界に誇る「いちご王国・栃木」のブランドの確立と輸出拡大に取り組めます。



収穫ロボット



鮮度を売りにしたプロモーション

③高収益な水田農業の確立と畜産経営力の強化

収益力の高い水田農業の確立を図るため、省力的な生産を行う大規模経営体や需要に応じた生産に取り組む産地を育成するとともに、畜産経営力の強化に向けて、自給飼料生産組織の育成などによる耕畜連携の更なる拡大に取り組むほか、米や畜産物の輸出に挑戦する産地の拡大を図ります。



耕種農家と畜産農家の連携による飼料生産



トップセールスでの試食提供（台湾高雄市）

④とちぎグリーン農業の推進

環境負荷低減の取組を本県のスタンダードな営農方法として普及・定着していくとともに、環境に配慮した生産等の見える化を進めるほか、有機農産物等の生産拡大や支援体制の強化を図ります。



有機農業現地セミナー



みえるらべるを添付したパッケージ

重点戦略3: 農の新たな価値の共創戦略

消費者や農業者をはじめ、行政、教育機関、企業、団体など多くの関係者が、本県の食や農業・農村への理解を深め、生産、流通、消費の立場を超えて知恵やアイデアを持ち寄り、農の新たな価値や魅力を創出します。

①食と農の結びつき強化

食料の安定供給や農業への関心が高まる中、消費者と農業者の相互理解を促進するとともに、大人世代への食育の推進を図るほか、県内企業や学校等における県産農産物の利用拡大などに取り組めます。



県産農産物利用拡大に向けた展示商談会



地産地消フェア

②栃木の農産物ブランド力の強化

県産農産物のブランド力強化に向け、新たな統一ロゴマークを活用した商品づくりの支援やプロモーションを展開するとともに、「いちご王国・栃木」のPRを推進し、国内外における「栃木ファン」の拡大に取り組めます。



栃木県産農産物統一ロゴマーク
「とちぎ育ち」



関西圏におけるいちご王国プロモーション

③農村の稼ぐ力の向上

農村の稼ぐ力の向上を図るため、インバウンド需要などの高まりを捉えたグローバルビジネスの創出や海外に向けた魅力発信などを促進するとともに、多様な人材や業種との共創により、農村地域の拠点とコンテンツのネットワーク化や、新たなサービスの創出などに取り組めます。

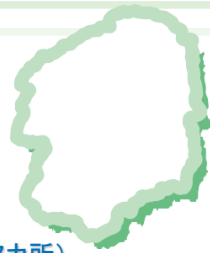


いちごオーナー体験イベント



農村地域をPRするデジタル広告

栃木県農政部の組織と仕事



農政課

☎ (028)623-2272

＊農政の企画・予算・広報など部内の取りまとめ、とちぎ農業未来創生プランの推進、食と農業の理解促進や食育・地産地消の推進、試験研究の総合調整、スマート農業の推進、農地法の許認可などに関する仕事をしています。

農村振興課

☎ (028)623-2363

＊農村への誘客促進、魅力的な中山間地域づくり、豊かな農村環境の保全・整備、水産の振興などに関する仕事をしています。

経済流通課

☎ (028)623-2297

＊農業協同組合や農業共済組合の検査・指導、農業制度金融の活用推進、農産物のブランド価値向上や輸出促進などに関する仕事をしています。

経営技術課

☎ (028)623-2313

＊新規就農者や農業経営者など担い手の育成、農業経営や技術の指導、とちぎグリーン農業の推進などに関する仕事をしています。

生産振興課

☎ (028)623-2328

＊米・麦・大豆の振興と水田農業の活性化、野菜・果樹・花き・養蚕などの振興、担い手への農地の集積・集約化の推進などに関する仕事をしています。

畜産振興課

☎ (028)623-2344

＊酪農・肉牛・豚・鶏・養蜂の振興、飼料の生産、家畜の衛生・防疫や環境対策、獣医師、公共牧場などに関する仕事をしています。

農地整備課

☎ (028)623-2361

＊農業農村整備事業の調査・計画及び実施、土地改良区の検査・指導、農地や農業用施設の災害復旧、換地などに関する仕事をしています。

● 農業振興事務所(7カ所)

地域農業の総合的な振興拠点として、農業経営や技術の普及指導、農業農村整備の施工や指導、農地法の許認可などを行っています。

● 水産試験場

大田原市佐良土2599 ☎(0287)98-2888
水産技術の研究開発などを行っています。

【ながわ水遊園】

大田原市佐良土2686 ☎(0287)98-3055
那珂川をはじめとする淡水魚の展示や、沿川地域の自然や文化に関する体験講座などを実施しています。

● 農業総合研究センター(本場・いちご研究所・原種農場)

宇都宮市瓦谷町1080 ☎(028)665-1241
最先端の農業技術や品種の開発、病虫害の発生予防などを実施しています。

● 農業大学校

宇都宮市上籾谷町1145-1 ☎(028)667-0711
次代の農業・農村を担う青年を優れた教育環境の中で育成しています。

【とちぎ花センター】

栃木市岩舟町下津原1612 ☎(0282)55-5775
花の生産・普及の拠点として、県民に憩いと安らぎを提供しています。

● 家畜保健衛生所

(県央)宇都宮市平出工業団地6-8 ☎(028)689-1200
(県南)栃木市惣社町1439-20 ☎(0282)27-3611
(県北)那須塩原市千本松800-3 ☎(0287)36-0314
家畜伝染病の予防や研究などを行っています。

● 畜産酪農研究センター

那須塩原市千本松298 ☎(0287)36-0230
乳用牛、肉用牛及び豚の生産技術や家畜ふん尿処理技術等の研究開発などを行っています。

農業振興事務所所管エリア



農業振興事務所の組織

※事務所によって課の名称や業務分担等が異なる場合があります。

管理部	管理課	予算・決算、農地、農業振興地域
企画振興部	企画振興課	地域の農業施策の計画立案、水田農業の活性化、市町村・農業団体等の総合調整、むらづくり、農村への誘客促進、中山間地域対策
経営普及部	園芸課 農畜産課 経営指導課	野菜・果樹・花き等の生産振興、技術・経営指導 米・麦・大豆及び畜産物等の生産振興、技術・経営指導 農業金融、経営体育成、環境保全型農業の推進
農村整備部	調査保全課 整備課 管理指導担当	農業農村整備事業調査・計画、農業集落排水、地籍調査 農業農村整備事業実施 土地改良区指導、換地

河内農業振興事務所	宇都宮市竹林町1030-2	☎(028)626-3059
上野農業振興事務所	鹿沼市今宮町1664-1	☎(0289)62-5236
芳賀農業振興事務所	真岡市荒町116-1	☎(0285)82-4438
下野農業振興事務所	栃木市神田町5-20	☎(0282)23-3425
塩谷南那須農業振興事務所	矢板市鹿島町20-22	☎(0287)43-1251
那須農業振興事務所	大田原市本町2-2828-4	☎(0287)23-3141
(同那須広域ダム管理支所)	那須塩原市百村3092-1	☎(0287)69-0101
安足農業振興事務所	佐野市堀米町607	☎(0283)23-1455

栃木県の品種・技術開発の取組

とちぎの農業関係試験研究機関

- 農業関係の4試験研究機関が、「栃木県農業試験研究推進計画」に基づき、効果的・効率的な試験研究に取り組んでいます。

【農業試験研究の重点テーマ】

- 1 生産性向上
- 2 気候変動への対応
- 3 環境との調和
- 4 ブランド力向上

◆畜産酪農研究センター

乳用牛、肉用牛及び豚の生産技術や畜産環境保全技術の研究開発を行っています。

◆県央家畜保健衛生所（家畜衛生研究部）

家畜疾病の診断・予防技術の研究開発を行っています。

◆農業総合研究センター

○本場

農作物の生産技術の研究開発や、新品種の開発を行っています。

○いちご研究所

全国唯一のいちご専門の公設研究機関。いちごの新品種開発や生産技術の研究開発を行っています。

◆水産試験場

本県特産魚の生産技術の研究開発や、水域生態系の調査・研究を行っています。

オリジナル品種の開発

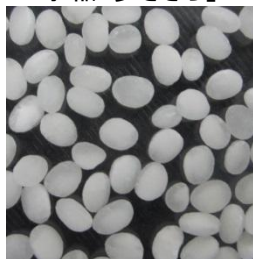
- 県試験研究機関では、消費者ニーズや農業者からの期待に応えるため、いちごや水稻をはじめ、なしや花きなどのオリジナル品種を、優れた育種技術により次々と開発しています。

いちご「とちあいか」



- 品種登録 令和6年6月
- 主な特徴
 - ・酸味が少なく際立つ甘さ。
 - ・収穫始めが10月下旬と早く、収穫量が多い。
 - ・切り口はへた部分がくぼむハート型である。
- 生産状況 令和8年産 448ha

水稻「夢ささら」



- 品種登録 令和4年2月
- 主な特徴
 - ・心白がはっきりしていて日本酒造りに適する。
 - ・玄米を削る際にも碎けにくい。ため、大吟醸酒の製造に向く。
 - ・稲が倒れにくく、病気に強い。

いちご「ミルキーベリー」



- 品種登録 令和6年6月
- 主な特徴
 - ・果実が白い。
 - ・まろやかな食感のいちご。
 - ・果実は大きいものが多く、収量性に優れる。
- 生産状況 令和8年産 2.6ha

大麦「もち絹香」



- 品種登録 令和4年2月
- 主な特徴
 - ・弾力のある食感
 - ・麦飯特有の不快感の発生しにくい。
 - ・炊飯後も褐変しにくい。（写真は炊飯24時間後）

にら「ゆめみどり」



- 品種登録 平成29年2月
- 主な特徴
 - ・生育が旺盛で多収。
 - ・収穫を重ねても葉幅の低下が少なく、品質が安定している。
- 生産状況: 46.0ha (令和7年度)

大麦「ニューサチホゴールド」



- 品種登録 平成30年2月
- 主な特徴
 - ・ビールの品質を低下させる酵素の一種(Lox-1)を含まない。
 - ・その他の特性はサチホゴールド同様で、栽培性に優れる。
- 生産状況: 6,892ha (令和8年産)

全雌三倍体サクラマス 「銀桜サーモン」



- 商標登録 令和4年3月
- 主な特徴
 - ・大型(全長約50cm)に成長する。
 - ・銀色に輝き、姿、色が美しい。
 - ・引きが強く、釣り味が良い。
- 取扱い管理釣り場
令和7年1月時点: 8箇所

あじさい「キャンディポップ」



- 出願公表 令和5年3月
- 主な特徴
 - ・八重咲きのがくあじさいで、花色は深みのある濃いピンク色で赤いふちどりが入る。

あじさい「スターポップ」



- 出願公表 令和5年3月
- 主な特徴
 - ・八重咲きのがくあじさいで、花色は白から淡いピンク色で赤いふちどりが入る。

あじさい「ジュエリーポップ」



- 出願公表 令和5年3月
- 主な特徴
 - ・八重咲きのてまりあじさいで、花色は白から淡いピンク色で赤いふちどりが入る。

現在登録されている栃木県育成の品種数 (令和8年8月時点)

※出願公表品種を含む

品目	水稻	麦	いちご	なし	かぼちゃ	うど	あじさい	りんどう	にら	その他	計
品種数	4 (5)	6 (12)	5 (10)	2 (3)	(1)	2	7	3	1 (3)	2 (16)	32 (61)

※ () 内はこれまで登録した品種数

新技術の活用

■GPS発信器を活用したカワウのねぐらの探索と除去

カワウは魚食性の大型鳥類で、県内には約1,500羽が生息しています。河川ではアユなどが捕食され、水産被害額は年間約1.6億円に上ります。カワウのねぐらは人目につきにくい場所に形成されることが多く、効果的な対策が課題となっています。

そこで県では、カワウ専用のGPS発信器を開発し、ねぐらの探索に取り組んでいます。発信器を装着したカワウの位置情報をスマートフォンで確認することで、効率的な探索が可能となりました。

この取組により、那須烏山市の荒川で183羽が利用する大規模なねぐらを新たに発見し、追い払いによって除去することができました。

今後もねぐらの探索・除去を進め、アユ漁場への飛来を抑制することで、水産被害の軽減につなげていきます。



生産量・産出額・食味で日本一『いちご三冠』達成



今年2月に開催された全国いちご選手権において、本県産「とちあいか」が最高金賞を受賞し、「食味」日本一を獲得したことで、「生産量」「産出額」と合わせた『いちご三冠』を達成しました。

首都圏の鉄道駅や空港、関西圏の商業施設等におけるプロモーションを通じて、この『いちご三冠』の実績を全国、そして世界へ発信し、さらなる生産振興とブランド力の向上につなげて参ります。

【写真(上)】いちご三冠達成PRスライド

【写真(下)】三冠達成を祝う様子



約1万6千人が来場 食育推進全国大会を栃木県で開催

令和8(2026)年6月6日(土)、マロニエプラザ、ブレックスアリーナ宇都宮及び宇都宮白楊高等学校を会場として「第21回食育推進全国大会 in とちぎ」を開催しました。

全国各地から約1万6千人の方々に御来場いただき、食と農のつながりを体感していただくとともに、本県が誇る農産物や食文化の魅力を全国へ広く発信することができました。

今後も、本大会を通じて広がった食育の輪をさらに発展させながら、「とちぎ食育元気プラン」に基づき食育の推進に取り組んで参ります。



【写真(上)】開会式 鈴木農林水産大臣挨拶

【写真(下)】鯛つかみどり体験